

第4回

走り続ける 公共交通を目指して

公共交通について、広報ふちゅうで、これまで3回にわたって特集してきました。

第1回は自家用車に依存する日々の生活を見直し、公共交通をうまく使うことの必要性を考えました。

第2回は公共交通が地域の活力を支えているという視点から、みんなで無理なく楽しくバスや電車に親しむ方法を紹介しました。

そして第3回では、実際に公共交通機関などを組み合わせた生活の実例を取材しました。

この特集をきっかけに「いつもはクルマだけど、時にはバスや電車で出掛けよう」と、少しでも考えてくだされば、府中市の交通を、つまりは市民の生活を守る第一歩につながるのではないのでしょうか。

乗りやすさの向上に
努めています

ぐるっとバス左まわりに電動ステップを取り付けた新型車両を導入しました。乗り降りの負担が軽減し、利用者数アップに貢献しています。



導入された車両

府中市内の一般路線バスのIC化100%を達成しました。高速バスを除いた全ての路線で、交通系ICカードが利用できます。

公共交通を知ってもらう活動に努めています

普段当たり前にあるもの

ほど、意外と気に留めないものです。

普段使わない人にこそ、公共交通の存在を知ってもらいたいという思いで、保育所と園児の協力のもと、定期的にバスの飾り付け活動を行っています。

また、福塩線では令和元年度より、周辺の市町およびJRの協力により、ワイン列車を運行することで、新たな魅力づくりを行っています。

問い合わせ先 都市デザイン課
(☎437159)



園児がクリスマスの飾り付けをしました

電車でおでかけ！福塩線団体補助制度

10人以上で福塩線を活用したイベントを企画すると、最大1万円の補助があります。

詳しくは都市デザイン課へ問い合わせるか、市のホームページをご覧ください。



公共交通乗り方教室

鉄道やバスに乗ってみたいけど、「どうやって乗るの?」「どこで乗り換えるの?」など、このような不安を地域の皆さんと一緒に解消しませんか。

町内会やコミュニティサロンなどへ出向き、出前講座を行います。詳しくは、都市デザイン課に問い合わせてください。



サービスを利用する様子

協和元気センター
会長 田原輝巳さん

地域が支える交流の足
協和地区でさまざまな活動をする協和元気センターの取り組みに、イベントなどへの有料送迎サービスがあります。地元の有志が運転を担い、あらかじめ決められた運行区域内を移動するお手伝いを行い既存のバスやタクシーと役割の住み分けを図ることで、継続できるよう工夫しています。協和元気センター 田原会長は、「移動の手段・機会が減ることは地域のつながり・コミュニケーションが薄れてしまうことになる。それを防ぐことで、協和地区の活力に貢献したい」と話されました。